

学年	教科等	単元名	日時
第6学年	体育科	たくみとやわらか(体の動きを高める運動)	平成30年11月2日(金)6校時
本時における「深い学び」	「ボールの落下点に移動する動きができ、ふりかえりにおいて、『〇〇に使えるそうだ!』と汎用性を見出す姿」を深い学びとする。		



「ピッタンボード」を使ってボールの落下点に移動する動きを高める実践
 ピッタンボードとは、株式会社セリア(Seria Co., Ltd.)の商品で、吸着盤の付いたボールを円形のボードにくっつけて遊ぶ玩具である。ボールは柔らかい素材で捕球の技能を軽減し、捕球ができなかったとしても、床に吸着するため、どこにボールが落下したのかが一目で分かるよさが魅力である。



T: (演示後) ピッタンボードを使うとどんな動きが高まりそう?
 C: 「ボールを観る動き」「ボールを捕る動き」「ボールの捕り方」「捕りに行く動き」
 T: 「なるほど! どれもボールを捕る動きに関係しているね。」



C: 「ボールに吸盤が付いていて、ボードにくっつくんだな。」「ボールが柔らかいんだな...。」

ハイボールキャッチ①

身体の声を生かした言葉かけ

子どもの身体の声に応じた言葉かけとは?

惜しい! ボールはここ(床に吸着している所)だね。次は、もう少し早く動き出そう。

ポイントの共有

T: みんなは、キャッチするためにどうしたの?
 C: ボールの落ちてくるところに動く。
 T: どういうことかな? K君、やってみて。



ステップ① 捕球の場所を決めない



ステップ② 顔から上

T: ボールがこっちに飛んできたら...?
 C: あっち!
 T: なるほど!



③ 腰から下



④ 地面すれすれ

今度は、キャッチしたら、すぐに相手に投げてみよう。

ハイボールキャッチ②

身体の対話を生む学習指導

動きの習熟の異なる仲間との身体の対話



落下点に素早く動いて模倣しようとする姿

ペアの動きを模倣する



ふりかえり

身体を見つめる学習指導

本時の学習で高めた動きの汎用性を問う

～子どもの付箋紙でのふりかえり～

T: キャッチするために意識したことは?
 T: どんな運動やスポーツに役立ちそう?
 C: ボールの動きをよく観る。
 C: ボールの落ちてくるところに素早く移動する。
 C: 野球(キャッチャー)、バドミントン、バスケットボール、バレーボール。
 T: (中学校の年間指導計画の例を示し) 中学校の保健体育の学習にもつながっている動きだね。

・ハイボールキャッチ
 1.意識したこと
 ボールが落ちてくるところを予想しました。
 相手が取りやすいように、ふわ～と投げることも意識しました。
 2.役立ちそうか...
 役立ちます!
 バレー、バドミントン、バスケットボールでは、この動きが必要になると思います。

ちゃんと目でボールを追いかけて、どこにおちるのか考えながらやりました。
 目でボールをしっかり追いかけて、ちゃんとキャッチもできませんでした。
 役立ちそうなのはバドミントンです。

私はボールをとるときに動きに気をつけました。ボールが落ちてきそうな所には素早く動きました。役立ちそうなのは、バレーボールなどをする時に、ボールをたくさんとれるようになると思います。

授業をふりかえって

- ボールの落下点に移動する動きについて、ピッタンボードを使った運動の体験を基にした実感を伴った学びができ、その汎用性を見出す子どもの姿があった。
- 身体の対話を生むための有効な手立てについて十分検討する必要がある。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)
 miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp


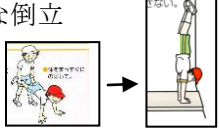

○ 指導計画（5時間）

時間	1	2	3（本時）	4	5
単元のめあて	巧みな動きや体の柔らかさを高め、役立つ動きか考えよう。				
内容	○ 準備運動（ストレッチ） ○ 運動課題の確認		○ 用具や場の確認		
	○ オリエンテーション	○ ボール	○ ボール	○ 短縄、長縄	○ 短縄、長縄
	○ 用具や場の片付け		○ 学びのふりかえり		

○ 本時の目標

ボールの落下点に移動することができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 身体をほぐす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 準備運動、「魔法のストレッチ」【柔】 ○ 新聞紙ランニング【持続】 ○ 手押し車【力】 → いろいろな倒立   <p>2 本時の学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のめあて <p>ボールの落下点に移動する動きを高めよう。</p> <p>3 ボールを使った運動1に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「コーンでキャッチ」【巧】 <p>4 ボールを使った運動2「ハイボール・キャッチ」【巧】に挑戦する。</p>  <p>ペッタンボード</p>  <p>ボード</p> <p>ハイボール・キャッチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な行い方の説明 <ul style="list-style-type: none"> ① AがBに高いボールを投げる（吸盤付のボール）。 ② Bが円形のボードで捕球する。 ○ ハイボール・キャッチ① <ul style="list-style-type: none"> ・ 形態：ペア（2人組） ・ 距離：4 m程度 ・ 捕球：①決めない → ②顔から上 → ③腰から下 → ④地面すれすれ ○ こつを共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予想して動く ・ ボールをよく観る ○ ハイボール・キャッチ② <ul style="list-style-type: none"> ・ 形態：ペア（2人組） ・ 距離：5～7 m程度 ・ 捕球：捕球者が捕る場所を決定 <p>5 学びをふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんな動きが高まったか <ul style="list-style-type: none"> ・ ボールの落下点に移動する動き ○ 高めた動きは何に役に立ちそうか <ul style="list-style-type: none"> ・ バレーボール、野球、バドミントン等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ストレッチや手押し車をした後、以下のようにして、身体の変化から運動の有用性を体感させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 魔法のストレッチでは、目印を決め、同じ動きを実施前と後で視覚的に比較させる。 ・ 手押し車でも倒立でも身体を「真っ直ぐの棒にする」という共通の意識を確認させる。 ○ 前時のふりかえりから、ボールを使った動きについての課題「ボールの落ちてくるところに動く」を共有させることで、学級全体の運動の必要性を高めることができるようにする。 ○ 仲間がふんわりと投げたボールを、小さなコーンを両手で持ってキャッチさせることで、ボールの落下点を予想して動けるようにする。 ○ 「ペッタンボード」に触れさせることで、ボールの柔らかさから安心感を高め、ボードに吸着する楽しさを感じさせたい。また、ボードの面の向け方を教えることで、捕球がしやすくなるようにする。 ○ 左頁「5 - (1)」の身体の声に応じた言葉かけをしていくことで、早く動き出そうとする意識がもてるようにする。 ○ ①～④のようにいろいろな所でボールを捕球させることで、落下点に対してどのように身体を位置付ければよいのか考えることができるようにする。 ○ 途中で、こつを共有させることで、仲間のこつからヒントを得て、試そうとする意識を高めたい。 ○ 「他にどんな捕り方があるかな。」と問う。その後、2人の間隔を広げ、ペアの捕球の仕方を交互に真似させることで、対話しながら、落下点に移動する動きを高めることができるようにする。 ○ 左記の2つを問い、前時のふりかえりの際に記入した付箋を使ったり、自分や仲間の動きをふりかえらせたりすることで、動きの高まりを自覚させたい。また、「身に付けた動きは、汎用性の高い価値のある動き」であることを知らせ、今後につなげたい。

○ めざす子どもの姿

ボールがどこに落ちてくるのか何となく分かってきたぞ。しかも、Aさんのように素早く動いてみたら余裕をもってキャッチできた。この動きは、バレーボールや野球、バドミントン等の運動でも使えそうだな。

【知識・技能】

